

「一人ひとりちがうその人の事情を理解し、気持ちに共感し、成長と学習をきめ細かに支援する」という設立趣旨を大切に、これまでと同様に支援活動を行ってきた。

特に平成24年度は、社会的養護が必要な子ども・若者の生活支援のための自立援助ホーム「ゆらい」の運営を本格的に開始した。同時に助成金事業「社会生活に困難を抱える子どもの自立支援事業」を実施し、法人の特色を生かした子ども・若者への支援体制の基盤を整備していった。

さらに、仮認定NPO法人格を平成25年2月25日に取得し、法人の社会的信頼性を高め、寄付を広く集めていくための環境を整えた。

1 事業の成果

(1) フリースクール事業

年間を通しおよそ40名程度が在籍し、子どもたちの居場所、育ちの場を提供した他、下記のような活動を行った。

- ・文部科学省の委託事業として地域の協力を得ながら「職場体験事業」を行った。
- ・学習支援を広域通信制高校卒業資格取得コースに在籍する子どもたちや通信制高校に通う子ども、自主的な学びを希望する子どもなどに行った。
- ・音楽活動を行い、地域の夏祭りに参加するなど他団体と協働して事業所内外で5回の演奏会を実施した。
- ・子どもの発案で夏に清水公園キャンプ、冬に草津温泉旅行を実施した。
- ・食育活動として「ひるめし食堂」を週1回、実施した。
- ・保護者会(2回)、保護者面談(1回)を実施した。
- ・保護者有志によるお茶会が毎月自主的に開催され、保護者同士の連携が深まった。
- ・子ども通信『Happy Go Lucky』を11回、発行した。
- ・フリースクールに入会もしくは継続しようとする子どもが、家庭の経済的な事情によって、それを妨げられることのないよう必要な支援を行うことを目的として、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金」を創設した。
- ・他団体との連携

2社の民間企業とのスポーツ交流会を継続して実施した。

フリースクール全国ネットワーク主催のイベント、夏合宿(北海道)と合同文化祭「フリースクールフェスティバル」(バンド演奏と「お化け屋敷」を出店)、フリースクールスタッフ養成・研修講座、日本フリースクール大会に準備から参加し、活動発表等をした。

(2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業

- ・親の会を開催し、不登校やひきこもりなどの体験談を聞く機会を設けた。
- ・関係機関と連携しながら相談活動を実施した。

- ・「ほっとサロン」を毎月1回開催し、生きづらさを感じている若者の互助活動を支援した。
- ・当初、「ゆらいサロン」として始めた活動を「あっぷるトーク」と改名し、ピアカウンセリング方式での相談会を毎週1回、実施した。

日本財団の助成を受け、以上の活動を実施した。

- ・不登校・登校拒否を考える全国ネットワークの運営に関わり、全国合宿などの講師を務めた。

(3) 生涯学習にかかわる事業

- ・子どもゆめ基金による助成を受け、「子どものための芸術ワークショップ（アートプロジェクト）事業」を実施した。
- ・昨年度に続き、埼玉県より「ひきこもり集いの場運営事業費補助金」を受け、20歳以上の居場所「ほっとりんご」を月2回程度実施した。
- ・平成17年度越谷らるごが中心となって立ち上げた、行政と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」を実施した。
- ・ジャズ・ミニ・コンサートを、2回開催した。
- ・講演会、学習会、シンポジウムを行った。

(4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業

- ・平成24年4月、自立援助ホーム「ゆらい」として児童福祉法の事業の届出を埼玉県に提出、受理された。
- ・定員6名であるが、延べ9名の入居者があり、家庭での生活に困難を抱える若者の生活支援を行った。また、一時保護、ショートステイなどを受け入れた。
- ・ホーム生活においては、入居者とスタッフのミーティングを月2回、スタッフ会議を週1回、外部支援者を含めた運営委員会を年4回開催し、入居者へ寄り添う形での支援を行った。
- ・誕生会や季節行事を行った。

この他、日本財団の助成を受け、以下の事業を実施した。

- ・地域交流事業を毎週1回開催し、夕食作りから会食の時間を通じて、自立援助ホーム「ゆらい」の若者と地域の方々との交流を図った。
- ・就労体験事業を実施し、自立援助ホーム「ゆらい」の家事援助を地域の若者の就労体験の機会として提供した。

(5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業

- ・越谷らるご通信、子ども通信を予定通りに発行できた。発送作業はフリースクールの保護者有志が中心で行った。またホームページの更新、メールマガジンの発行など予定通りできた。
- ・協力者・支援者を募るために、新リーフレットを刷新した（日本財団助成事業）。
- ・講師活動としては、職場参加をすすめる会、コ・ラ・ボ埼玉、埼玉大学、南越谷地区センター、郡山チャイルドラインにスタッフ等を派遣した。
- ・埼玉県主催「不登校セミナー」にブース出展した。
- ・文部科学省が中心の「子ども見守り育てるネットワーク推進会議」の「子どもが安心できる不登校支援の在り方に関するワーキンググループ」にフリースクール全国ネットワークの一員として参加した。

2 事業の実施にかかわる事項

特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所
(1) フリースクール事業	年間を通して、学校以外の子どもの居場所・出会い・交流・学習の場の提供、活動支援、相談活動、見学・体験入会などの実施、情報提供などを行った。平成24年度は38名でスタートし、6名が新入会し、7名が年度中に退会した。(平成25年3月末の在籍:39名。)	本法人の事業所他
(2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	親の会 毎月1回、年間を通して実施した。のべ参加者数:96名。	本法人の事業所
	相談活動 不登校、ひきこもり、家族関係の問題などの相談を受けた。 相談件数:1853件(電話・来室 97件、メール相談1756件)	本法人の事業所他
	ほっとサロン 毎月1回、年間を通して実施した。のべ参加者数:43名	本法人の事業所
	あつぷるトーク(7月までは「ゆらいサロン」として活動) 毎週1回開催し、ピアカウンセリング方式で就労相談会を実施した。 のべ参加者数:55名	本法人の事業所
(3) 生涯学習にかかわる事業	アートプロジェクト事業(子どもゆめ基金助成金事業) 5月～翌年3月の土曜日に月3回、不登校の子ども若者を対象に体験的アート活動を行った。のべ参加者数:225名	本法人の事業所他
	ほっとりんご(埼玉県ひきこもり集いの場運営事業費補助金事業) 20歳以上の人の居場所として毎月2回、座談会や調理など多様な活動を実施した。のべ参加者数:192名	本法人の事業所他
	行政と地域との協働事業(わくわく体験プロジェクト) 不登校の体験談を聞く会とフリースペースを同時開催し、年度末に報告書を作成した。	中央市民会館
	講演会・学習会 社会状況と子ども若者への理解を深め、地域の支援のネットワークを広げるため、6回の学習会と、講演会、シンポジウムを1回ずつ開催した。	本法人の事業所
	ジャズ・ミニ・コンサート ジャズピアニスト板倉克行氏らによるコンサートを2回開催した。 各回20名前後の参加者があった。	本法人の事業所
(4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	自立援助ホームの活動 家庭での生活に困難を抱える若者の生活支援を行った。一時保護、ショートステイを受けた。	本法人の事業所
	地域交流 毎週1回開催し、夕食作りから会食の時間を通じて、自立援助ホーム「ゆらい」の若者と地域の方々との交流を図った。	本法人の事業所
	就労体験 自立援助ホーム「ゆらい」の家事援助を地域の若者の就労体験の機会として提供した。	本法人の事業所
(5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	越谷らご通信の発行 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所
	インターネットによる発信 不特定多数の方を対象に、毎月1回メールマガジンの発行とホームページの更新を随時行った。	本法人の事業所
	リーフレット刷新 総合的なリーフレット(A4版8ページ)を2,000部作成した。	
	講師派遣 依頼に応じ、可能な範囲で講師を派遣した。	依頼先